

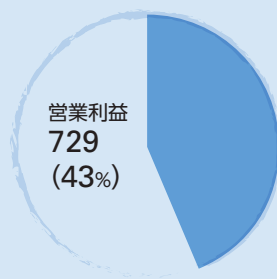
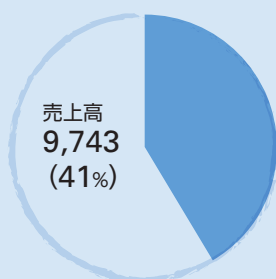
2018年度セグメント別活動状況

事業区分・セグメント		実績概況
STRATEGY	基幹事業	繊維 国内では、自動車関連など産業用途は総じて需要が堅調なものの、衣料用途は天候不順の影響もあり荷動きは低調に推移する中、各用途での拡販に加え、糸綿／テキスタイル／製品一貫型ビジネスの拡大を進めるとともに、事業体質強化に注力しました。 海外では、東南アジアなどの一部子会社の業績が低調であったほか、中国経済の減速により、年度後半から自動車関連用途向けなどで需要減速の影響を受けました。衣料用途では一貫型ビジネスの拡大を進めました。また、国内外とも全般的に原料価格上昇の影響を受けました。
	戦略的拡大事業	機能化成品 樹脂事業は、自動車用途向けに拡販するとともに、原料価格上昇に対する価格転嫁を推進しましたが、中国経済減速の影響を受けました。ケミカル事業は、基礎原料市況が改善するとともに、ファインケミカル製品も増収となりました。フィルム事業は、リチウムイオン二次電池向けバッテリーセパレータフィルムが需要の伸長を背景に出荷を拡大しましたが、原料価格上昇の影響がポリエステルフィルムなど広範にわたりました。電子情報材料事業は、スマートフォン市場の需要鈍化の影響を受けました。
	戦略的拡大事業	炭素繊維 複合材料 航空宇宙用途では、航空機向けサプライチェーンでの在庫調整が完了したことを受け、需要は概ね堅調に推移しました。一般産業用途では、圧縮天然ガスタンクや風力発電翼などの環境・エネルギー関連向けを中心に、全体として需要が回復傾向となりました。一方、原料価格の上昇や競合激化の影響を受けたほか、海外のコンポジット子会社で新規案件立ち上げに伴う費用が増加し、TenCate Advanced Composites Holding B.V.の全株式取得に関連する費用も発生しました。
	重点育成・拡大事業	環境・ エンジニアリング 水処理事業は、国内外で逆浸透膜などの需要が概ね堅調に推移しました。国内子会社では、商事子会社の取扱高が増加しましたが、海外のエンジニアリング子会社において、大型プラント工事案件が終了した影響を受けました。
	重点育成・拡大事業	ライフサイエンス 医薬事業は、経口プロスタサイクリン誘導体制剤ドルナー®が海外向けに数量を拡大したものの、国内では後発医薬品や薬価改定の影響を受けました。経口そう痒症改善薬レミッチ®*は、後発医薬品発売の影響を受けました。 医療機器事業は、ダイアライザーが国内保険償還価格の引き下げと原料価格上昇の影響を受けましたが、国内外で堅調に数量を伸ばしたほか、透析装置も数量を拡大しました。 *レミッチ®は、鳥居薬品株式会社の登録商標です。

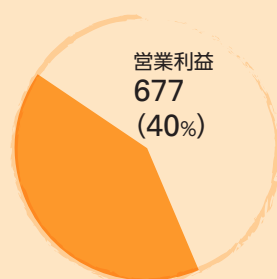
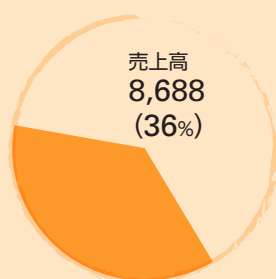
業績(億円)

主要製品

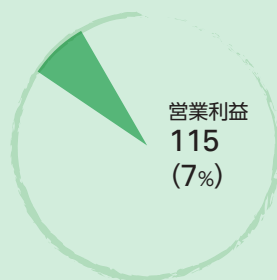
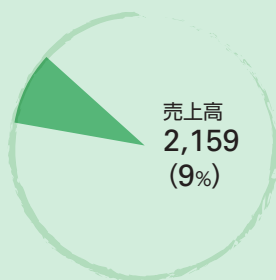
*各セグメント内の()内の数字はセグメント別構成比です。



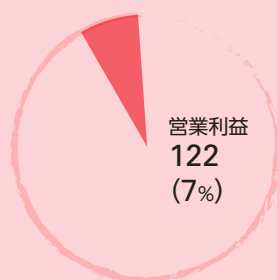
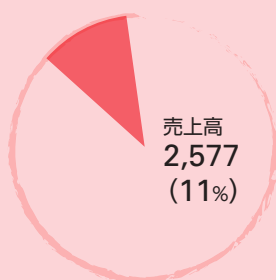
- ナイロン・ポリエステル・アクリル等の糸・綿・紡績糸及び織編物
- 不織布
- 人工皮革
- アパレル製品等



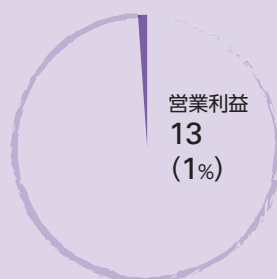
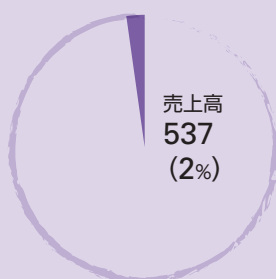
- ナイロン・ABS・PBT・PPS等の樹脂及び樹脂成形品
- ポリオレフィンフォーム
- ポリエステル・ポリエチレン・ポリプロピレン等のフィルム及びフィルム加工品
- 合成繊維・プラスチック原料
- ファインケミカル
- 電子情報材料
- 印写材料等



- 炭素繊維・同複合材料及び同成形品等



- 総合エンジニアリング
- マンション
- 産業機械類
- 情報関連機器
- 水処理用機能膜及び同機器
- 住宅・建築・土木材料等



- 医薬品
- 医療機器等

*上記のセグメント以外に、その他の売上高185億円(1%)、営業利益31億円(2%)と、調整額の営業利益△273億円があります。営業利益のセグメント別構成比は調整額を除いて算出しています。